



連合駿台会報

No.307 平成25年1月15日発行
 編集・発行 連合駿台会
 広報委員長 齊藤柳光
 〒101-0052 千代田区神田小川町三十二
 明治大学「紫紺館」内
 電話 (03) 3296-1474
 FAX (03) 3296-1478
 印刷 有限会社 美創

我々の想いを、大学支援に

連合駿台会
会長
山口政廣



新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
 旧年中は、当会の運営・活動に対しましてご理解、ご協力を賜わり、厚く御礼申し上げます。

リーマン・ショック後の経済動向、東日本大震災による莫大な損害とその復興、原子力発電所の事故対策と存続、尖閣諸島・竹島領有に伴う日中韓関係の悪化、ヨーロッパ金融信用不安等々と、国内・外とも課題山積の一年でした。

また、主要国の指導者の改選期が重なった上、日本も急遽、衆議院解散・総選挙となり、三年余続いた民主党政権から、再び自民政権に代わりました。

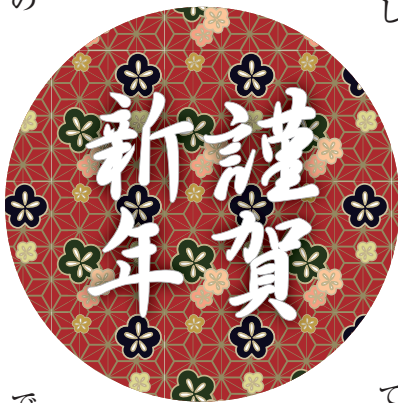
今年は、指導者の交代で、世界的な新しい枠組みの中で、課題が検討され、進展していくのでしよう。しっかり見守っていききたいものです。

さて、大学経営は少子化の中、年々厳しくなっており、マクロ的には定員割れ等により、大学淘汰が既に始まっています。これに対処するには、あらゆる面で質の向上を目指し、努力しなければなりません。そして、大事なのは、改善取り

組み状況やその成果・実績を学内・外に発信することです。

当校は、この数年連続して志願者数が十万人を超えていますので、受験者・保護者に対する発信は、ある程度成功していると思われます。しかし、在学生・卒業生、寄付者、研究委託者、企業、地域社会等のステーク・ホルダーに対しては、どうでしょうか。これらの評価に関する調査をマスコミで見ますが、必ずしも良い評価を得られているとは言い難い状況です。

たとえば、身近な寄付金。私立大学にとっての寄付金は、財源確保のための重要な課題です。各大学とも積極的に寄付金を募っています。昨年十一月の日経新聞



の記事を見ますと、三一%の卒業生が寄付の経験があり、大学別では、上位十大学（二位は六一・七%）のうち私立大が六校を占めているものの、残念ながら十位（三七・九%）の中に、母校の名がありませんでした。

我々の大学への想いを、大学支援に託するとすれば、寄付という形が一番現実的ではないでしょうか。大学の更なる発展のため、未来サポート募金の五つの重要課題を、もう一度理解を深め、支援・協力したいもの

着実に改革を進めていく年に

です。

また、大学をより理解するために、母校をはじめ、他大学のホーム・ページの中を散歩することをお勧めします。意外な発見がある

り、母校の良さも改めて感じられます。

当会としては、寄付ばかりではなく、母校が、これからも社会から高い評価が得られるよう、様々な面で、惜しむことなく協調・

協力したいと、想いを新たにしています。

最後になりましたが、皆様のご理解とご支援・ご協力をお願いし、ご健勝・ご多幸を祈念申し上げます。

学校法人明治大学
理事長
日高憲三



年頭にあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。連合駿台会の会員の皆様には、日ごろから明治大学へのご支援をいただき、心より御礼申し上げます。

昨年四月に、理事長に就任し、はや九ヶ月が経過しました。この間、多くの校友、父母、行政・企業関係者と懇談し、明治大学への大きな期待を実感しております。今年は、皆様の期待を裏切らぬよう、当大学が抱える諸問題に真摯に取り組み、着実に改革を進めていく年したいと思います。

今春、当大学は、中野キャンパスと総合数理学部の開設という大きな節目を迎えます。中野キャンパスは、駿河台、和泉、生田に次ぐ第四のキャンパスで、和泉から国際日本学部と大学院国際日本学研究科が、生田から大学院先端数理学研究科と理工学研究科

新領域創造専攻が、それぞれ移転します。そして、総合数理学部、理工学研究科建築学専攻国際プロフェッショナルコースを新たに設置し、中野キャンパスを「国際化、先端研究、社会連携の拠点」と、位置づけていきます。私は、中野キャンパスが、世界から注目される教育・研究拠点になり、ひいては明治大学の牽引役となることを期待しています。皆様も、ぜひとも中野キャンパスの活動にご注目くださいますようお願いいたします。

ところで、今日、少子化、情報化、グローバル化の波が押し寄せる中で、時代は大きく動いています。大学は、これまで以上に教育と研究の質が問われていますし、イノベーションの創出、地域社会の拠点となる役割を求められ、大学の機能そのものも変わってきています。大学経営もこれまでの価値観に捉

われず、新たな事業、新たな挑戦が必要な時代を迎えていることを強く感じています。

しかし、あり方や役割は時代と共に変われども、大学は教育・研究を通じた社会貢献、つまり社会に有為な人材の育成が最大の使命です。大学の評価基準の一つに「卒業生がどれだけ社会で貢献しているか」が挙げられますが、今日の明治大学の社会的評価は、卒業生一人ひとりが積み上げてきた評価です。私たちは、先輩方に負けない、人間の魅力に溢れた学生をこれからも育てていくことを使命とし、明治大学を「世界に誇れる大学」とするために邁進いたします。

結びに、今後とも明治大学へのご支援、ご協力を賜わりますとともに、新しい年の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

学生たちの未来のために

新体制発足後九カ月を経過し、新年を迎えました。謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年は、地域産学連携研究センター、黒川農場および和泉図書館が竣工し、本学の個性化を一段と強める活動拠点が生み出され、学外からも注目される存在となりました。その清新の気あふれる中、本学は一層の飛躍をめざして、さらなる新しい一歩を踏み出します。

この四月、約六十年ぶりの新キャンパスとして開設される中野キャンパスには、総合数理学部および理工学研究科建築学専攻国際プロフェッショナルコースを新設し、国際日本学部、先端数理学研究科、理工学研究科新領域創造専攻および国際日本学研究科を移転設置します。竣工を目前にして、その開設準備が着々と進行していますが、このように特徴ある学部・研究科で構成される同キャンパスは、国際化・先端研究・社会連携の拠点として積極的な展開が大いに期待されます。また、駿河台キャンパス旧十一号館跡地には、同じくこの四月に、文系大学院と研究拠点施設を収容する「グローバルフロント」が

オープンします。世界へ発信する研究拠点の施設として、活発な研究展開と実り豊かな成果を生み出すものと確信します。さらに本学は、昨年九月、文部科学省の大学教育改革支援事業（競争的補助金）に、三つのプログラム「国際機関等との連携による『国際協力人材』育成プログラム（明治大学・立教大学・国際大学間連携）」、「日本ASEANリテラシーを重視した実務型リーダー育成プログラム」および「『強い個』をベースとした『Empowered Public、創成人材の育成と輩出』が採択されました。補助の大きさは、四年半で総計十億円超に及び、新年度からはいよいよ本格的にカリキュラム上で稼働します。本学の国際化を一層発展させるため、それぞれのプログラムにおいて全学を挙げた取り組みが展開されます。

こうしたこれまでの努力の成果を基盤として、さらに新たな展開を構想し、その実現に向けて精力的に取り組むことが求められます。流した汗の中にも、未来を的確に展望する視座が存在すると強く信じます。根拠の

ない不安に惑わされることなく、地道な努力の積み上げを図って参ります。

ところで、本学はこれまでも「就職に強い大学」と評されて参りましたが、昨秋に教育情報通信社が実施したアンケート調査においても、二位の立命館大学に倍以上の差をつけて、「就職に力を入れている大学、第一位」に選ばれました。それだけのきめ細やかな就職支援を本学は行っていますが、今なお就職難と呼ばれる状況にある中、連合駿台会の皆様におかれましても、学生達の夢の実現のため、これまでも増してご支援ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

結びにあたり、連合駿台会の益々のご発展、さらには会員の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。新年の挨拶にかえさせていただきます。

明治大学
学長
福宮賢一



謹賀新年



T C I株式会社

代表取締役
あぐつ 昭二
〒150-0011 渋谷区東二二七七一〇
TEL 五四六七〇〇三六
FAX 五四六七九三四七
E-mail:shojitak2@tc-i.co.jp

株式会社エービーコーポレーション

代表取締役
阿部 倫明
〒980-0004 仙台市青葉区宮町三三八一三三
TEL 〇二二二七〇〇三三
FAX 〇二二二五一一〇八一

連合駿台会

副会長
新井 久晴
〒177-0041 練馬区石神井町二一四一一一五〇九
TEL 三九九七一三四五七
(FAX共用)

株式会社三井住友銀行

常務執行役
石井 仁
〒100-0005 千代田区丸の内一〇一〇二
TEL 四三三三二二六七六

税理士法人あい&ゆう税務会計事務所

代表社員
石橋 良一
〒142-0042 品川区二葉二二四一九一〇一
TEL 三七八三一七一
FAX 三七八三一二七五

三八五流通株式会社

常務取締役
泉山 和久
〒039-1189 青森県八戸市長苗代上中坪三五一一
TEL 〇一七八一七七一四一四一
FAX 〇一七八一七七一五〇九

前田道路株式会社

代表取締役
磯 昭男
〒141-8665 品川区大崎一〇一〇一三
TEL 五四八七〇〇〇二
FAX 五四八七〇〇〇四一

小田急不動産株式会社

取締役仲介
事業部長
宇敷 和章
〒151-0061 渋谷区初台一四七七一
TEL 三三七〇一一二一六
FAX 三三七〇一一二四九

株式会社プラム社

代表取締役
宇田川 雄弘
〒179-0085 練馬区早宮三一七七一四
FAX 三九九三一五三八一
TEL 三九九三一五三八一

株式会社アツマ

取締役会長
内田 八郎
〒272-0823 千葉県市川市東菅野三一〇一〇一〇四
TEL 〇四七三三三六〇四九四
(FAX共用)

株式会社藤枝江崎書店・藤枝江崎新聞店

代表取締役
江崎 友次郎
〒426-0025 静岡県藤枝市藤枝一四四一〇二
TEL 〇五四一六四四一六〇六〇
FAX 〇五四一六四四一五二九〇

大石電機工業株式会社

代表取締役
大石 哲也
〒140-0011 品川区東大井二一一七一九
TEL 三七六一二二一六六
FAX 三七六一二四八五一

安全と信頼の警備 タイヨー株式会社

代表取締役
大村 託現
〒124-0024 葛飾区新小岩一五七七一三
TEL 五六六二一三三三三
FAX 五六六二一三三三三

株式会社アマダ

代表取締役
岡本 満夫
〒259-1196 神奈川県伊勢原市石田二〇〇
TEL 〇四六三一九六一一一
FAX 〇四六三一九四一九七八一

富士建物管理株式会社

代表取締役
長田 宇功
〒190-0021 立川市羽衣町三一八一一一
TEL 〇四二一五二四一六五一
FAX 〇四二一五二四一六五一

株式会社大気社

専任
執行役員
押田 裕介
〒160-6129 新宿区西新宿八一一七一
TEL 五三三八一五一一三
FAX 五三三八一五六二九

ハミルトン株式会社

代表取締役
落合 由行
〒279-0025 千葉県浦安市鉄鋼通り二二二八
TEL 〇四七―三八二―八三三三
FAX 〇四七―三八二―八三三四
<http://www.hamilton-ship.co.jp>

株式会社聖和

代表取締役
小野 寺弘三
〒533-0033 大阪市東淀川区東中島一―八―一五
新大阪丸ビル一〇〇八号
TEL 〇六一六―八五―八〇〇八
FAX 〇六一六―八五―八〇〇三

株式会社アクト・キャリアキユープ

代表取締役
長 荻部 彰夫
〒104-0061 中央区銀座一―一四―一五
銀座ウイングビル
TEL 三五六―二一六―一六一
FAX 三五六―二一六―一六〇

アサガミ株式会社

代表取締役
長 木村 健一
〒100-0005 千代田区丸の内三―一―一
国際ビル六F
TEL 六八八―〇一―二二〇〇
FAX 六八八―〇一―二二三〇

ベアリング・プライベート・エクイティ・アジア株式会社

代表取締役
古賀 慎一郎
〒349-0111 埼玉県蓮田市東四―五―二三
TEL 〇四八―七六八―一四七〇
FAX 〇四八―七六八―一三六五〇

株式会社スヴェンソン

代表取締役
長 児玉 圭司
〒107-0052 港区赤坂一―九―一―三
三合堂ビル五F
TEL 三五八―六〇―〇〇一
FAX 三五〇―三一―五七九七

金印株式会社

代表取締役
長 小林 一光
〒454-8526 名古屋市中川区八幡本通二―一六―一
TEL 〇五二―三六―一三二―二一
FAX 〇五二―三六―一三三―四四

小山修平公認会計士事務所

代表社員
税理士 小山 修
公認会計士 税理士 小山 修平
〒342-0056 埼玉県吉川市大字平沼二―六三
TEL 〇四八―九八二―〇三三〇
FAX 〇四八―九八二―〇三三九



東神興業株式会社グループ

代表取締役
長 根田 哲雄
社 長 根田 吉雄
〒167-0043 杉並区上荻三―一―九―一―五
TEL 三三九―五五―六九九

明治大学マスコミクラブ

常任顧問
齊藤 柳光
〒330-0855 さいたま市大宮区上小町九四五
TEL 〇四八―六四四―〇〇八五
FAX 〇四八―六四四―〇三〇六

株式会社シティ・ハウジング

代表取締役
佐藤 仁
〒144-0034 大田区西糀谷四―二―八―一―四
TEL 三七四―二七―六〇七
FAX 五七〇―五―一八〇九七

株式会社ザイナス

代表取締役社長
公認会計士 坂田 英夫
〒103-0027 中央区日本橋三―五―一―三
三義ビル八F
TEL 三三七―五―一〇八〇八
FAX 三三七―五―一〇八〇八
㈱明大サポート監査役・築地魚市場㈱監査役

株式会社エス・オー・ケー

代表取締役
宗 邦雄
〒158-0093 世田谷区上野毛三―一六―一―三―四〇七
TEL 三七〇―二一―六七〇九
FAX 三七〇―二一―七三三一

日新工業株式会社

常務取締役
相臺 志浩
〒120-0025 足立区千住東二―二―三―一―四
TEL 三八八―二―二四―二―四
FAX 三八八―一―八五―四―五

北斗産業株式会社

代表取締役
園田 英次
〒520-3252 滋賀県湖南市岩根一―六―七―八―一―五五九
TEL 〇七四―八―七五―一―八四―一―一
FAX 〇七四―八―七五―一―八四―一―四
<http://www.hokuto-inc.co.jp>

ダイアナ株式会社

代表取締役
長 高橋 郁夫
〒150-0001 渋谷区神宮前一―一―八―一―六
TEL 三四〇―五―一四―〇〇―一
FAX 三四七―九―一八―〇―一―四
<http://www.dianashoes.com>

学校法人明治大学

常勤理事
財務担当 武田 宣夫
〒101-8301 千代田区神田駿河台一―一―一
TEL 〇三一―三―二九―六―四―〇〇〇

時計バンド製造株式会社バンビ

代表取締役
長 舘林 精二郎
〒110-0016 台東区台東四―一―三―二―一―一
TEL 五六八―八―〇一―一―一
FAX 五六八―八―〇一―一―三九



谷公認会計士事務所

代表 表 谷 慈 義

〒135-0004 江東区森下二一八九一八
TEL 三六三二一八〇二九
FAX 三六三二一八〇七六
明治大学大学院特別招聘教授・校友会本部監査委員

明治大学評議員・校友会副会長

辻嘉右工門

〒916-0055 福井県鯖江市鯖江一〇一〇一五
TEL&FAX 〇七七八二一八八五五
明治大学政治経済学部講師

徳丸織物株式会社

代表取締役 徳丸平太郎

〒335-0001 埼玉県蕨市北町三一五一四
TEL&FAX 〇四八四四三二一〇五〇

株式会社太昌園

代表取締役 長岡信裕

〒110-0005 台東区上野二一八一一〇
TEL 三八三四一六五四一
FAX 三八三四一四五〇

株式会社ナガホリ

取締役会長 長堀守弘

〒110-8546 台東区上野一五一一三
TEL 三八三六一四七一一三
FAX 三八三五一〇八一五

ホスピタリティ・ツーリズム専門学校
東京ブライダル専門学校

校長 中村裕

〒164-8550 中野区東中野三一八一八一
TEL 五三八六一〇九四一
FAX 三三六〇一七一一七

株式会社早野組

営業本部 顧問 中村豊

〒400-0807 甲府市東光寺一四一四一〇
TEL 〇五五二二二二一八六八六
FAX 〇五二二二二二一七六六六五

株式会社デイスコ

代表取締役 長 夏井文俊

〒112-8515 文京区後楽二一五一五一一
TEL 五八〇四一五五〇〇
FAX 五八〇四一五九一九

株式会社ナミキ

代表取締役 会長 並木洋一

〒175-0094 板橋区成増三一〇二一一
TEL 三九三九一〇〇二八
FAX 三九七五二〇〇五六

西山商事株式会社

代表取締役 会長 西山武夫

〒201-0004 狛江市岩戸北四一九一〇二
TEL 三四八〇一四二二〇
FAX 三四八〇一四三六五

つばさ法律事務所

弁護士 一宮充忠

〒101-0047 千代田区内神田一三三一一
(東京弁護士会所属) 高砂ビル5F
TEL 三三九五二二五二一
FAX 三三九五二二五二八

学校法人明治大学

常勤理事 経営企画担当 橋口隆二

〒101-8301 千代田区神田駿河台一〇一
TEL 三三九六一四〇〇〇
FAX 三三九六一四三二八
学校法人明治大学評議員

本年も宜しくお願致します

長谷川勝彌

〒178-0065 練馬区西大泉四一八一三六
TEL 三九二二一五九七三

栗原工業株式会社 東日本営業本部

常務取締役 本部長 濱崎治

〒105-0014 港区芝三二二四一七
TEL 六四〇〇一三二〇三
FAX 六四〇〇一三二〇八

西武産業株式会社

代表取締役 社長 樋口郁夫

〒101-0046 千代田区神田多町二一七
大橋ビル
TEL 五二〇七二七七五五
FAX 五二〇七二七七五七

学校法人明治大学

理事長 日高憲三

〒101-8301 千代田区神田駿河台一〇一
TEL 三三九六一四〇〇〇
FAX 三三九六一四三二八

フジ企画株式会社

代表取締役 社長 藤代耕一

〒221-0021 横浜市神奈川区子安通一三三三六
TEL 〇四五四三三三〇一〇一
FAX 〇四五四三三三〇六〇〇

メトロ電気株式会社

代表取締役 社長 藤巻伴英

〒101-0063 千代田区神田淡路町一〇一九一四
TEL 三三二五三三三〇三六
FAX 三三二五三三三三九四



松商学園高等学校 松本大学
松本大学松商短期大学部 松本秀峰中等教育学校

理事長 藤原 一二

〒390-0303 長野県松本市浅間温泉二一四一
TEL 〇二六三二四六〇五五七

学校法人 明治大学 評議員
連合駿台会 常務理事

大学支援
委員長 舟橋 達彦

〒225-0021 横浜市青葉区すき野一―一四一B三〇七
国立大学法人 電気通信大学 特任講師
明治大学 商学研究所 特任研究員

富士通株式会社

執行役員 古田 英範

〒144-8588 大田区新蒲田一―一七一二五
富士通ソリューションズスクエア
TEL 六二四二一六〇一八

弁護士

堀越 孝

本間・北本総合事務所

税理士 本間 美邦

〒102-0083 千代田区麹町四―三―一五
TEL 三三六五一一六一
FAX 三二六五一五〇七
紀尾井観光ビル

NPO法人みなみ

理事 松崎 優子

〒134-0085 江戸川区南葛西六―二―二八
TEL 五六七六―〇三七三
FAX 五六七六―〇三七五

東京テアトル株式会社

代表取締役
会長 松下 晴彦

〒104-0061 中央区銀座一―一六―一
TEL 三五六一―八五三〇
FAX 三五六一―八六一五

高野山真言宗 妙智山歓成院名誉住職
宗教学法人 大倉山アソカ幼稚園園長

摩尼 和夫
(僧名之 法)

〒222-0037 横浜市港北区大倉山二―一八―七
TEL 〇四五―一五三二―二〇五四
FAX 〇四五―一五三一―四一四

岡谷電機産業株式会社

代表取締役
会長 CEO 丸山 律夫

〒158-8543 世田谷区等々力六―一六―九
TEL 四五四四―七〇〇〇
FAX 四五四四―七〇〇七

エフ株式会社

代表取締役
宮下 隆

〒170-0005 豊島区南大塚三―三二―一〇
TEL 五九五〇―六六五一
FAX 五九五〇―六六五二

株式会社内田洋行

相談役 向井 眞一

〒104-8282 中央区新川二―一四―一七
TEL 三五五五―四〇〇一
FAX 三五五五―四六二〇

株式会社ダイニチ

代表取締役
六井 元一

〒279-0002 千葉県浦安市北栄一―一六―一三
DNプラザビル
TEL 〇四七―三五四一―〇二二三
FAX 〇四七―三五四一―二四二五
<http://www.dainichi.co.jp>

株式会社デザイン・の森

代表取締役
森 一朗

〒231-0005 横浜市中区本町六―一五―二
横浜エクセレントビル・五F
TEL 〇四五―二二八―二二五五
FAX 〇四五―二二八―二二五〇
<http://www.demori.co.jp>
E-mail: mori@fd5.so-net.ne.jp

共同印刷株式会社

顧問 山口 政廣

〒112-8501 文京区小石川四―一四―一二
TEL 三八一七―三三二二
FAX 三八一七―二二二〇

山崎製パン株式会社

取締役
社長 山田 憲典

〒101-8585 千代田区岩本町三―一〇―一
TEL 三三六四―三二〇一
FAX 三三六四―三二〇九

株式会社日本金属工芸研究所

取締役会長
彫刻家 山田 朝彦

〒113-0023 文京区向丘一―一六―一二
TEL 三八一―一七七〇九
FAX 三八一―三〇〇〇三

株式会社シンメイ

代表取締役
会長 湯川 孝則

〒226-0013 横浜市緑区寺山町八六三
TEL 〇四五―九三七―三三二二
FAX 〇四五―九三七―三三六七

ワタミ株式会社

取締役会長
渡邊 美樹

〒144-0043 大田区羽田一―一―一三
TEL 〇三五七―三七―二二八八
FAX 〇三五七―三七―二二八八
<http://www.watami.co.jp/>



連合駿台会十一月例会

「吉田秀彦トークショー」

柔道家・総合格闘家 吉田秀彦氏

連合駿台会平成二十四年十一月の例会を、十一月二十一日(水)十八時より、明治大学「紫紺館」三階会議室で、吉田秀彦氏をゲストスピーカーとして開催しました。

当日の講演(トークショーの質疑応答)の要旨は以下の通りです

*



男子日本柔道の復活に向けての今後の展望はどうか？

ご承知の通り、今回のロンドンオリンピックで男子柔道は金メダルゼロ、今までにない成績で終わった。後から考えてみ

ると、選手たちには金メダルを取る実力はあったが、ただそれを出し切れていない。石にかじりついても勝とうという気迫が感じら

れなかったし、そういう根性が選手にはなかった。また全体を通していえば、全日本柔道連盟は今こそ変わらなくてはいけない時だと思ふ。先日、十日間ほどフランスに行つて、向こうの柔道連盟や町道場とかを見てきたが、すごいシステムで驚かされた。日本の柔道人口は二十万人というが、フランスは百万人で、それだけ柔道が親しまれている。フランス柔道連盟は、日本柔道の伝統・教育を学んで、柔道を盛んにしてきたが、そのシステムを全柔連が逆に学ぶ時期が来たような気がする。日本の伝統や文化の素晴らしい所は残しつつ、海外のいい面にも目を向け、受け入れるようにしていかなければ、日本柔道はどんどん衰退していつてしまうだろう。

一番大事だと思ふのは、底辺の拡大。底辺が広くなればなるほど、いい選手が生まれてくるわけだから、そういう努力をこれからしていかななくてはいけない。次のリオデジャネイロではどうなるかわからないが、この成果はそう簡単には出てこないだろう。ただ五年、十年、またそれ以上かけて裾野を広げ、日本の柔道を変えていくほかないと思ふ。

国際試合で日本選手はうまく対応できていないのではないかと？ JUDOという違うスポーツとして対応しなければポイントは取れないのではないかと？《柔道》なのか、それとも《JUDO》なのか？

日本の柔道と国際JUDOとのルールの違いはある。したがってそれに対応できるような練習をしていかななくてはならないのは勿論だが、今の柔道を見ていると、自分がこういう形になったらこの技で投げられる、いわゆる「得意技」を持っている選手がなかなか見受けられない。僕と同じオリンピックに出た古賀稔彦選手は、自分の形になれば得意技の背負い投げ一本で取りに行つた。今の選手にはそういう得意技がないような気がして、対応できていないというより、相手を投げる事ができないから、勝てないように思える。練習の中で、いかにして独自の技を身につけていくか……、得意技を磨くことができなければ、国際試合では通用しなくなるような気がする。

いま話に出た古賀選手に、バルセロナオリンピック直前、ケガをさせてしまったというの……？

「ケガをさせた」という表現には語弊があり、たまたま一緒に練習中、僕が技を受けた時に古賀選手が自分で足を滑らせてケガをしてしまった(笑)。あれはちょうど二十年前になるが、オリンピック開幕十日前に現地バルセロナに入ったが、集中した練習をしたいというので一緒に段取りをしたところ、古賀選手が自ら滑って負傷してしまうのだが、すごいと思つたのはケガをしてから試合

までの間、彼は一言も試合に出ないとは言わなかったことだ。選手村でも常に「これで金メダルを取る」と自分に言い聞かせていた。しかし歩くこともままならず、毎日足を冷やしているようでは、金メダルどころか、試合もできるわけないと、誰もが内心思っていただろうが、古賀選手は弱音を吐くことはまったくなかった。「俺も金メダルを取るから、お前も取って来い」という一言を受けて僕は試合に臨み、結果として金メダルに輝き、もちろん嬉しかったのだが、その時点では真の喜びはなかったように思う。翌日、古賀選手も金メダルを取って、ようやく本当の歓喜に浸ることができたような気がする。

僕が金メダルを取って選手村に帰った夜、すでに十二時も回っていたので、同室の古賀選手を気にして静かにドアノブを回して部屋に入ろうとしたところ、寝ていると思っていた彼が起き上がって、一言「おめでとう！」と言われた。僕は「ありがとうございます」とだけ答えて、咄嗟にドアを閉めて部屋を出た。僕だけ取って本当に申し訳ない思いで一杯だったし、あの状態ではまともに試合することすら無理だと思っていたからだ。心の中では「すみません」と言い続けていた。

翌日、古賀選手は片足を引きずりながら選手村から試合場に向かったが、ドーピングの関係で強い痛み止めは使えないので、何か

所か打ってテーピングで固めアップし始めたところ、昨日まで足を引きずっていたのに、普通に走り出したのだ。それを見た時、「もしかしたら、この人、本当にやってくれるんじゃないか……」と感じた。その痛みを抑えたのは、金メダルを取るといふ並外れた強い気持ちだったと思う。決勝戦は旗判定だったが、僕はその時初めて神様に祈った。そして古賀選手が金メダルを取って、ようやく本当に心の底から涙が出てきた。その姿を見て、気持ち次第でどうにもなるのだということも教えられた。これは柔道だけでなくあらゆることにつながるだろうし、今の自分にも生き続けていると信じている。

なぜ、プロ格闘家になったのか？

大学卒業後に新日鐵に入社したのだが、自分はこの会社にずっとはいないだろうと直観した。そこで取りあえず、ここで柔道を腹一杯やろう、それが自分の仕事だとも決めた。柔道の選手はだいたい二十六、七歳で現役を引退する。僕は自分が勝てるうちは目一杯やろうと決めていたので、三十二歳まで現役を続けたが、引退を決めたきっかけは、あの鈴木桂治選手だった。この時初めて、勝てないと思った。ちょうどプライドという総合格闘技がブームで、自分も好きだったので時々観に行っていたのだが、これなら勝てると思っ

た(笑)。自分の中の勝負の火というのは消えていなくて、この競技ならやっつけていけると思った時期に、たまたまオファーがあった。柔道を背負ってというのはおこがましいが、柔道をバックボーンにやったら、少しは柔道への恩返しもできるかなあ、とも思った。

新しく代表監督になった井上康生さんへの期待とか評価はどうか。

ロンドンオリンピックで金メダルなしに終わって、彼自身もゼロからの出発になるので、ここからどうやっていくか、非常に楽しみにしている。性格的にも真面目だから、応援してくれる人は多いと思うし、まずは十一月三十日からグランドスラムという大会もあり、それが監督としてのデビュー戦になるので、どういう采配を振るうか期待している。

「一流」と「人並み」という言葉があるが、持って生まれた才能を努力で磨いて、初めて一流になれるのだと思うのだが……。

人それぞれ向き不向きはあると思うが、僕自身、柔道を始めた時にはオリンピックでメダルを取れるなどとは考えてもいなかった。メダリストになると、人からは一流だと言われるが、自分自身ではまったく思っていない。中学・高校ぐらいまでは本当に弱くてみんなから苛められて、柔道を辞めようと思ったことはいくらでもあった。しかしそれを続けたことで結果もついてきた。結果が自分の自信になり、気がついた時には金メダルと取って

いた。そう考えると、金メダルも一生懸命やったことによる自然の結果なのだと思います。才能とは違うが、僕は負けず嫌いで、勝ちたいと思う気持ちが強かったから、途中であきらめず、練習がむしやりにやった。こういううちよつとした差が出たのかなと思う。今、自分で道場をやっているが、みんな強くなれると思っっている。ただ同じ練習時間でも

【講師略歴】

吉田秀彦（よしだ・ひでひこ）

一九六九年九月三日生まれ。愛知県大府市出身。
一九九二年バルセロナオリンピック柔道男子七十八kg級金メダリスト。柔道六段。
一九九七年から二〇〇二年まで母校明治大学の柔道部の監督を務める傍ら、二〇〇〇年にはシドニーオリンピック九十kg級に出場。三回戦で対戦相手の投げを手をつけて耐えた際に右肘関節脱臼の怪我を負い、敗退。同時に敗者復活戦は不戦敗となった。

二〇〇二年、全日本柔道選手権への出場を最後に第一線から退き、自らの道場である吉田道場を設立、師範を務めている。同年、ゴールデンハート賞を受賞。二〇〇二年八月にはプロ格闘家としてデビューし、二〇一〇年まで活躍した。プロ格闘家引退から一年が経過し、全日本柔道連盟への指導者登録が可能になったことを受け、二〇一一年五月に時間貸し駐車場経営で有名なパーク24の柔道部監督に就任した。

強くなれる人とそうでない人とは、その内容や努力に差があるような気がする。

メディアにおいても、フランスの柔道界を日本は見習わなくてはいけないと言われているが、柔道界を担っている人たちは、それを聞き入れてくれると思うか？

多分無理だろう（笑）。僕は町道場を五カ所主宰しているが、赤字続きで、かわいい弟子がいるから、やれる限りやっというところ張っているだけだ。昔、フランス柔道連盟は日本をマネしながら、自国の柔道界を形成していったのだが、そのシステムは素晴らしい、夢のある柔道を作り上げた。それに比べると日本の柔道界は、子どもたちにとって夢がない。子どもたちがやりたいと思えるように、日本の柔道界を変えていかなければならないと思っっている。

◆広報委員会からのご案内（理事会議事録）

日時：平成二十四年十二月二十一日（水）十七時
場所：明治大学「紫紺館」（二F会議室）

○新推薦会員承認の件

丸山組織委員長から、今回は推薦者が多かったのですが、郵送による理事会審議で八名の方全員の承認をいただき、七名の方がすでに入会の手続きを済ませ、今日の例会に出席される方もいる、という説明があった。その後

入会推薦書が提出された四名について、組織・会員増強委員会では入会を承認したという報告があり、全員異議なく承認された。

また、今例会から、名札に、初めて出席された方にはリボン、二回目からの方には金色の丸印で出席回数を表すようにしたので、理事の方々にはできる限り積極的にアプローチして欲しいという要望も出された。

○各委員長よりの報告事項

委員長の連絡会議にあたる運営委員会（第三回）が十月十五日に開催されたので、各委員会から報告してもらおうことにする。

〈広報委員会 齋藤委員長〉

前回の理事会でもご報告した通り、パンフレットはできあがったが、ホームページもその後専門家と取り組み、現在は新しくオープンしている。内容的にはパンフレットに掲載したものにさらに情報を加え、ホームページの特性を活かすようにしており、会報も、今年一月号分からPDF形式で掲載している。今後は例会終了後、広報委員が持ち回りで報告を載せていく予定である。

〈大学支援委員会 舟橋委員長〉

秋期寄付講座は先月無事に終わり、約百八十名の参加者があった。ホームカミングデーは四千名を超す来場者が集まり、盛大のうちを終了し、当会としては広告および山田

朝彦氏作の作品を景品として寄贈したが、個人の寄付が少なかったようなので、PR不足もあったと思うが、来年からは連合駿台会の会員として協力していただきたい。学術奨励賞については、来年一月十六日開催の駿台懇話会で表彰予定だが、今回は当会からも中川副委員長が選考委員会に出席している。

予算に関しては、当初予算は五百九十万円だったが、検討の結果、二百八十五万円くらいで収まりそうである。ただし活動を縮小してしまうということではない。また、明治大学ビジネススクールのグローバル・ビジネス研究科シンポジウムのパンフレットを同封したので、時間があればご参加いただきたい。

〈財務委員会 谷委員長〉

従来は九月末における中間決算書や半期報告書は要求されていないが、今回初めて引き継いだので、年度末に混乱しないよう作成してみた。簡単に報告すると、年間収入予定額千九百九十九万円に対して十月末の実績はおよそ千七百七十七万円、約七百五十万円の差額がある。これが十月一日以降どれだけ入金されるかという点、昨年の実績でみると約二百万円で、今年も同様ということになると、予算比五百万円以上のマイナスになる。これが赤字になるわけなので、折に触れ、各委員長に収入の進捗状況に見合った支出の管理をお願いしている。連合駿台会、連合父母会、

校友会というように、大学の周辺には大きな団体があるが、これらが連携をしながら、各団体が単独でやるよりもっと大きな形で明治大学に資することができないのかと考え、各組織の横のネットワークの強化・提携を進めていく中で、必ずしも大きく予算をかけなくてもプラスになるような道を模索することも一つの道ではないかと思う。今後は運営委員会でもこれらのことを掘り下げていければいいと思っている。

〈総務・事業委員会 河村副委員長〉

総務・事業委員会も年初総予算は五百六十五万円だが、財務委員会からの試算では二割程度の削減が必要とのことであった。年度途中のご指摘でもあったので、本年度は一割程度切り詰めていくことを目指している。予算の中では講師料のウエイトが大きいので、新規の会員の方も含め、会員の方がどのような講演を希望しているかの意見の徴収もまとめて、本日の吉田氏のようなエンタテインメント的講師と、比較的講師料が安くすむ大学関係者のようなアカデミックな講師とのバランスで年四回の講師の選定を進めていけたらという基本的な考えを持っている。

◆新入会員ご紹介

前会までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。(敬称略・到着順)



みずえ ひろし
水江 博
昭和四十四年・商学部卒
（株）関電工・取締役社長
東京都練馬区在住



いわさき こういち
岩崎 浩一
昭和五十五年・商学部卒
日清フーズ（株）代表取締役社長
東京都江東区在住



まかべ はちろう
眞壁 八郎
昭和四十四年・工学部卒
蛇の目シン工業（株）代表取締役社長
神奈川県相模原市在住



いしかわ たかし
石川 孝
昭和六十三年・文学部卒
（株）リケン・営業本部大阪営業部長
兵庫県尼崎市在住



やまだ てつお
山田 哲夫
昭和五十一年・工学部卒
（株）明電舎・執行役員・研究開発本部長
東京都品川区在住



田中 等
昭和四十八年・法学部卒
丸の内南法律事務所・代表弁護士
東京都文京区在住



水澤 元博
平成十二年・政経学部卒
水澤電機㈱・専務取締役
新潟県長岡市在住



奥村 勝広
昭和五十七年・工学部卒
パナソニックESシリアエンジニアリング㈱
取締役副社長
東京都中央区在住



阿部 倫明
昭和六十三年・法学部卒
㈱エビコロポレーシヨ・代表取締役
宮城県仙台市在住



押田 裕介
昭和四十五年・商学部卒
㈱大気社・専務執行役員・CRMセンター長
千葉県船橋市在住

◆明大ニユース

●第四十六回衆議院総選挙

明大関係者十二人が当選

明大出身者は、中退者を含む十二人が当選（小選挙区八人、比例代表四人）し、うち新人は四人。当選者の略歴等は次のとおり。
丸付き数字は当選回数、掲載順は北の選挙区から、敬称略。

小選挙区

井野俊郎（いの・としろう）

三十二歳・自民新〔群馬2区〕
二〇〇三年法学部卒。弁護士。元伊勢崎市議

笹川博義（ささがわ・ひろよし）

四十六歳・自民新〔群馬3区〕
政治経済学部中退。ポート製造会社社長。県議等歴任

新藤義孝（しんどう・よしとか）

五十四歳・自民前⑤〔埼玉2区〕
一九八〇年文学部卒。経済産業副大臣、外務政務官等歴任

渡辺博道（わたなべ・ひろみち）

六十二歳・自民元⑤〔千葉6区〕
一九七六年法学研究科修了。経済産業副大臣、党副幹事長等歴任

櫻田義孝（さくらだ・よしとか）

六十三歳・自民元⑤〔千葉8区〕

一九七四年商学部卒。内閣府副大臣、経済産業政務官等歴任

萩生田光一（はぎうだ・こういち）

四十九歳・自民元③〔東京24区〕
一九八七年商学部卒。文部科学政務官、党副幹事長等歴任

北村茂男（きたむら・しげお）

六十七歳・自民前③〔石川3区〕
一九六八年経営学部卒。党副幹事長。党国対副委員長、党県会長等歴任

谷 公一（たに・こういち）

六十歳・自民前④〔兵庫5区〕
一九七五年政治経済学部卒。党災害対策特別委員長。国土交通政務官、県防災局長等歴任

比例区

松本文明（まつもと・ふみあき）

六十三歳・自民元②〔東京〕
一九七一年政治経済学部卒。衆国土交通委員、都会党幹事長等歴任

漆原良夫（うるしばら・よしお）

六十八歳・公明前⑥〔北陸信越〕
一九六七年法学部卒。党国対策委員長、弁護士。党幹事長代理、衆院法務委員会理事等歴任

西岡 新（にしおか・あらた）

三十九歳・維新新(四国)
ガバナンス研究科中退。給食設備会社役員。元衆院議員秘書

宮崎政久(みやざき・まさひさ)

四十七歳・自民新(九州)

一九八九年法学部卒。県更生保護協会理事長、弁護士。元沖繩弁護士会副会長

東京都知事に猪瀬氏

東京都知事選挙が二〇一二年十二月十六日に投票され、前都副知事の猪瀬直樹氏が初当選を果たした。投票率は六二・六%で、前回の五七・八%を上回った。

猪瀬氏の得票数は四百三十三万八千九百三十六票に達し、都知事選では過去最多得票。他の地方選や国政選挙を含めても個人としての得票では過去最多とみられる。

猪瀬直樹(いのせ・なおき)

六十六歳・無所属

一九七五年政治経済学研究科修了。作家。前東京都副知事

参議院繰り上げ当選

参議議員の衆院選への立候補に伴い繰り上げ。任期は二〇一六年七月二十八日まで

藤巻幸夫(ふじまき・ゆきお)

五十二歳・みんな新

研究・知財戦略機構特任教授

OB県議

▽茨城県議会議員(十二月十六日投票)

小川一成(おがわ・いっせい)

六十五歳・自民⑤

二〇一一年ガバナンス研究科修了

公認会計士試験合格は四十四人

現役合格者十八人に報奨金を授与

二〇一二年度の公認会計士試験合格者が二〇一二年十一月十二日、金融庁の公認会計士・監査審査会から発表された。今回の試験の最終合格者数は千三百四十七人(前年千五百一十一人)で、合格率は七・五%(同六・五%)だった。明治大学関係者の合格者は、明治大学国家指導センター経理研究所(山本昌弘所長・商学部教授)調べでは四十四人だった。(二〇一二年十二月十日現在)

●秋の褒章・叙勲

政府は二〇一二年秋の叙勲受章者三千九百四十人、褒章受章者七百三十六人を十一月三日に発表した。

各県校友支部等を通じて十二月十二日までに報告された明大関係者の受章者は次のとおり(年齢は受章時)。

▽旭日小綬章 〓大久保義海氏(埼玉県商工会連合会会長。一九五八年政経学部卒・七十六歳)、榮居義則氏(元川崎市議会議員、明治

大学校友会川崎地域支部幹事。一九六五年農学部卒・七十歳)、横張清美氏(元日本弁護士連合会常務理事、明治大学校友会葛飾区地域支部副支部長。一九六五年法学部卒・七十歳)

▽旭日双光章 〓雨宮正弘氏(元東京都目黒区議会議員、明治大学校友会目黒区地域支部長。一九六二年法学部卒・七十五歳)、齊藤孝弘氏(元財日本ソフトテニス連盟理事。一九五七年商学部卒・七十七歳)

▽瑞宝双光章 〓木村文男氏(元公立小学校長、明治大学校友会青森地域支部幹事。一九六〇年文学部卒・七十五歳)、工藤一雄氏(元青森市助役。一九五七年農学部卒・七十七歳)、藤澤教彰氏(保護司、明治大学校友会札幌地域支部常任幹事。一九六六年商学部卒・七十一歳)

▽黄綬褒章 〓松中秀司氏(有松中一級建築士事務所代表取締役、明治大学校友会川崎地域支部幹事。一九六三年工学部卒・七十二歳) 〓紫綬褒章 〓中山信弘氏(東京大学名誉教授、明治大学研究・知財戦略機構特任教授。一九六九年東京大学法学部卒・六十七歳)

二〇一二年春の叙勲・褒章受章者(四月二十九日付)のうち、明大関係者は概報(会報第三〇四号)のとおりだが、新たに次の二氏の受章が判明した。

▽**旭日双光章** 川口睦郎氏（元長崎県労働委員会委員、明治大学校友会佐世保地域支部顧問。一九六五年文学部卒・七十歳）

▽**黄綬褒章** 萩原武彦氏（祥興ハウジング(株)代表取締役。一九七二年商学部卒・六十二歳）

●**商学部 ファッション・ビジネスの最前線に触れる**

商学部の斎藤和弘特任教授は十一月二十六日、担当する「ファッション・ビジネス論B」の授業に、トッズ会長兼CEOのデイエゴ・デッラ・ヴァツレ氏を招き、特別講演会を実施。リバティタワー1032教室には、約二百人の学生が詰めかけ関心の高さを示した。

●**教養デザイン研究科 開設五周年記念シンポジウムを開催**

教養デザイン研究科は十一月十七日、和泉キャンパスのメディア棟M304教室で、開設五周年を記念して「文化は誰のものか？—ネイション・ステイトを越えて」と題したシンポジウムを開催した。

●**国際日本学研究科 開設記念シンポジウム「バリアを越えるイマジネーション」**

二〇一二年四月に開設した大学院国際日本学研究科の開設記念シンポジウム「バリアを越えるイマジネーション」が、十二月十五

日、駿河台キャンパス・リバティホールで開催された。

●**グローバル・ビジネス研究科主催シンポジウム 「三十年後の日本の競争力」**

グローバル・ビジネス研究科は十二月六日、駿河台キャンパスのリバティホールでシンポジウム「三十年後の日本の競争力」を開催した。同シンポジウムには、大学関係者・学生のほか企業人も多く来場し、約五百人が熱心に耳を傾けた。

●**食と農のシンポジウム「今こそ前へ！震災復興と農村再生へ向けて」**

明治大学と、JAグループなどをつくる「食と農の研究ネット」は十二月八日、食と農の未来を考えるシンポジウム「今こそ前へ！ 震災復興と農村再生へ向けて」を駿河台キャンパスで開催。東日本大震災で多大な被害を受けた福島県飯館村の菅野典雄村長の基調講演をはじめ、震災ボランティア学生報告や、著名人らをパネリストに迎えてのパネルディスカッションなどが行われ、約五百人が来場した。

●**産学連携プロジェクト**

歌代ゼミが商品企画にかかわったランチパックが発売に！

このプロジェクトは、山崎製パン、JT B西日本が産学連携、キャリア教育支援として大学との連携で推進しているキャンパスランチパックの一環で、関西地区では関関同立等のコラボ商品が既に発売されていたが、関東地区では今回初めて、明大の他、早大、法大、立大の四大学の商品が一斉に発売された。

●**「ドイツのエネルギー転換」講演会**

国際連携部は十一月二十一日、明治大学ドイツ研究会、駐日ドイツ大使館と共催で、独ヴツパター環境・エネルギー・気候研究所前所長のDr.ペーター・ヘニツケ教授を招き「ドイツのエネルギー転換—そのチャンスと障害」をテーマに、駿河台キャンパスアカデミーコモンで講演会を開催した。

●**理工学研究科 オレゴン大学大学院ポータル校から短期留学生が来日**

理工学研究科建築学専攻（担当…小林正美教授、佐々木宏幸教授）は、オレゴン大学大学院ポータル校との大学間協定に基づく交流プログラムを実施した。十二月十一日にリバティタワー二十三階矢代操ホールで、勝悦子副学長（国際交流担当）、小林教授、佐々木教授らが、オレゴン大生十五人、ハワード・デイヴィス教授、ハヨ・ナイス准教授と意見を交換した。

●三創立者出身地で学生が政策提言

社会連携機構（機構長＝藤江昌嗣副学長）は、昨年八月下旬から十二月にかけての約三カ月間、創立者の出身地三地域（鳥取県、山形県天童市、福井県鯖江市）で、学生と地域の人々の交流と連携を通じて、地域活性化の提言を行う学生派遣プログラムを開催した。三地区十四グループに分かれ、現地フィールドワークを実施し、学生たちは十月に成果報告書を作成。十一月以降から順次現地での成果報告会に臨み、さまざまな学びや気づきを得た。

●学生ボランティア

古着回収と難民テント展を開催

明治大学学生赤十字奉仕団クローバーと法学部生有志のグループは十二月十一日～十三日の三日間、ユニクロらの協力を得て、難民のための古着回収「あなたが着なくなった一枚が、誰かにとって必要な一枚になる」を和泉キャンパスで初めて開催。夏休み明けからの呼びかけに多くの学生たちが賛同し、三日間で二千四百八十枚もの古着が集まった。

●映画「東京家族」（一月十九日公開）

特別試写会開催

明治大学校友会は十一月二十九日、神保町の一ツ橋ホールで映画『東京家族』の試写会

を開催し、明治大学の校友三百五十六人が山田洋次監督の新作映画を一般公開前にいち早く鑑賞した。試写会に先立ち、先日文化勲章を受章した山田洋次監督の舞台あいさつも行われた。

●明大祭・生明祭を開催！

学生が主役の秋のビッグイベント、「第百二十八回明大祭」（十一月一日～三日）と「第十二回生明祭」（同二十三日～二十五日）が開催され、合計六万三千人が学園祭を満喫した。

●新教育・研究拠点

「グローバルフロント」誕生

一月下旬、駿河台キャンパスに十七階建ての新教育・研究棟（延床面積一六・九一〇㎡）が竣工する。この建物は、「世界に発信する最先端の研究拠点と陶冶の場」をコンセプトとした駿河台C地区（旧十一号館）整備計画として、大学院の新たな教育・研究の場を創出すると同時に、時代をリードする研究拠点のさらなる飛躍のために建設された。

建物の名称は、グローバル化する時代の先進的研究拠点を目指して、「グローバルフロント」と命名された。人文・社会系の大学院、研究・知財戦略機構、国際連携機構が移転し、四月より利用が開始される。

●明治応用化学会、第一回総会を開催

十一月二十四日、明治応用化学会[®]の第一回総会が開催された。明治応用化学会は、昨年に応用化学科創設五十周年記念行事に先立ち開催された理工学部ホームカミングにおいて設立された工業化学科および応用化学科の卒業生の組織である。OBと現役学生との架け橋を築こう[®]の合言葉のもと、この一年間で会則の整備や役員の選出を行い、今回の総会を開催した。

●第八回「父母交流会」

小春日和の中、三千人超が参加

連合父母会（丹澤正彦会長）は十一月十八日、第八回「明治大学父母交流会」を駿河台キャンパスで開催。お天気にも恵まれ過去最高の三千人を超える父母が参加した。この会は、父母間の交流や、子女が学ぶキャンパスの見学などを目的に、父母会が大学支援策の一翼を担う事業として開催するもので、二〇一二年度は東京以北の二十三地区地域の父母会員が対象となった。

●世界に広がる協定校

明治大学は、イーストロンドン大学、泰日工業大学、デュッセルドルフ大学と大学間協力協定を、弘光科技大学工学部と学部間協定を新たに締結した。協定校は四十の国と地

域で、二百八大学（学部間協定など含む）。

●ラグビー明早百戦目

ロスタイム逆転V、対抗戦優勝十四年ぶり

体育会ラグビー部は十二月二日、関東大学ラグビー対抗戦Aグループ最終戦の早稲田大学戦（東京・国立競技場）に臨み、後半ロスタイムに、途中出場の高屋直樹（商4）がトライ、そして染山茂範（政経4）のゴールで逆転。33―32の一点差で宿敵早大を降し、六勝一敗で、筑波大、帝京大と同率で十四年ぶりの優勝を果たした。三校同時優勝は対抗戦史上初となった。

◆十一月例会出席者

青木孝、秋山隆敬、环昭二、浅井宏、浅倉晴司、阿部倫明、新井久晴、有賀隆治、同ご友人、飯塚佳央、五十嵐卓、池田勝也、石川均、石橋良一、石原道勝、石原裕司、泉山和久、伊東正博、伊原敏雄、上西紘治、潮田伊佐夫、打出満、内田八郎、江崎友次郎、大原幸男、大牟田伸洋、大村託現、大山卓良、小倉忠、押田裕介、落合由行、笠井正弘、勝俣正義、菊部彰夫、河村博、北野大、木野幸士、木下重次郎、木村健一、清末法弘、清野明男、小柴和弘、小山修、根田哲雄、斉藤春夫、斉藤弘之、齋藤柳光、坂田貞夫、坂田英夫、佐々木伸一、佐藤健、眞田瞳、澤野太嘉

嗣、志村康洋、甚野捷、鈴木勝利、鈴木紘一、鈴木隆志、鈴木紀行、瀬下和夫、宗邦雄、相臺志浩、園田英次、高澤徹、高橋郁夫、武田宣夫、館林精二郎、谷慈義、田村駿、辻嘉右エ門、徳丸平太郎、長岡信裕、中川敏洋、中島御幸、長堀守弘、中村欣治、中村豊、並木洋一、西尾勝治、西崎誠次郎、西野晃透、二宮充子、二宮忠、橋口隆二、長谷川勝彌、長谷川進一、濱崎治、原田榮、樋口郁夫、日高憲三、比良田幸雄、廣石清治、同ご友人、弘中徹、福田和彦、富士豊、同ご友人、藤代耕一、舟橋達彦、星野範仁、同ご友人、堀和子、同ご友人、堀越孝、前川一郎、松崎優子、摩尼和夫、真野孝志、丸山律夫、向井眞一、六井元一、室井恵明、森一朗、安河内究、山口政廣、山田朝彦、結城康郎、湯本良太郎、同ご友人、吉村國廣、渡辺紀之、渡邊洋三

◆事務局よりお知らせ

まことに申し訳ございませんが、一月二十八日より二月十一日まで、事務局をお休みさせていただきます。お問い合わせ等に関しては、下記メール宛にお送り下さいましたら、できる限り対応させていただきます。

E-mail: rengousundaikai@silk.ocn.ne.jp

ご面倒をおかけいたしますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【編集後記】

謹んで新春のお慶びを申し上げます。皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

何と今年は母校誕生（1881）以来、十一回目の巳年で百三十二歳になります。この間の主な出来事は日露戦争（1905）、世界恐慌（1929）、太平洋戦争勃発（1941）、オリンピック不況（1965）、ベルリンの壁崩壊（1989）、九・一一米国同時テロ（2001）という世界的に大きな変化の年でした。

今年には日本をはじめ中国、韓国、ロシア、フランスなど各国トップの交代で新しい時代に突入。安倍首相には安定した政治と外交の回復はもとより、まずは経済の再生、被災地の復興に全身全霊を尽くして欲しいものです。

母校は昨年四月から日高理事長、福宮学長を中心とした新体制の下で長期ビジョンの具現化、実現に向けて、皆様方のご協力を頂きながら着々と前進しております。一月に駿河台地区（旧十一号館跡地）に十七階建ての「グローバルフロント」が竣工、四月には待望の中野キャンパスがオープン、国際化・先端研究・社会連携の拠点として人気絶頂の国際日本学部が和泉から移転、そして本学十番目になる総合数理学部が新設され、世界に発信、誇れる総合大学を目指しております。

また、志願者数が三年連続全国第一位という社会的評価は大学側の諸施策、努力は勿論のこと、同時に社会で活躍されている校友皆様一人ひとりが努力を積み重ねて来た評価の賜物であり、私たちの誇りと高揚感を覚えます。そこで年初に当たりまして我が明治大学が今後の熾烈な大学間競争を勝ち抜いて行くため「未来サポーター募金」に旧に倍する暖かいご支援、ご協力を心からお願ひ申し上げます。大学・父母会・校友会・連合駿台会が一丸となって大学の総合力をさらに高めて行きますように！

（有賀 隆治）